

TOSHIBA

東芝デジタル複合機

e-BRIDGE Plus for Barcode Scan 取扱説明書

- このたびは東芝デジタル複合機をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
- お使いになる前に取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後は必ず保管してください。

©2017 - 2020 Toshiba Tec Corporation All rights reserved

本書は、著作権法により保護されており、東芝テック株式会社の承諾がない場合、本書のいかなる部分もその複写、複製を禁じます。

はじめに

このたびは東芝デジタル複合機をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本書は、e-BRIDGE Plus for Barcode Scanを使って複合機でスキャンしたバーコード付き文書を外部共有フォルダに保存する方法について説明しています。お使いになる前に本書をよくお読みください。

■ 本書の読みかた

本文中の記号について

本書では、重要事項には以下の記号を付けて説明しています。これらの内容については必ずお読みください。

 **警告** 「誤った取り扱いをすると人が死亡する、または重傷*1を負う可能性があること」を示しています。

 **注意** 「誤った取り扱いをすると人が傷害*2を負う可能性、または物的損害*3のみが発生する可能性があること」を示しています。

 **注意** 操作するうえでご注意いただきたい事柄を示しています。

 **補足** 操作の参考となる事柄や、知っておいていただきたいことを示しています。

 関連事項を説明しているページを示しています。必要に応じて参照してください。

*1 重傷とは、失明やけが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものを指します。

*2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電を指します。

*3 物的損害とは、財産・資材の破損にかかわる拡大損害を指します。

本書の対象読者について

本書は一般使用者（ユーザ）および機器管理者向けの取扱説明書です。

本文中の画面について

お使いの機種やオプション機器の装着状況、インストールしているアプリケーションによっては、表示される画面が異なることがあります。

本文中の記載名称について

本書では、両面同時原稿送り装置と自動両面原稿送り装置を、どちらも「自動原稿送り装置」と記述して説明しています。

商標について

本書に掲載されている会社名/製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

e-BRIDGE Plus for Barcode Scanを使用する

e-BRIDGE Plus for Barcode Scanを使ってスキャンしたバーコード付き文書を、外部サーバーの共有フォルダに保存する方法について説明します。

このアプリケーションについて	6
管理者への説明	6
ユーザへの説明	6
このアプリケーションを使用できるように準備する	7
本機にこのアプリケーションをインストールする	7
文書をスキャンして保存するためのジョブを設定する	8
操作パネルのホーム画面にこのアプリケーションを登録する	16
ジョブを選択して文書をスキャン・保存する	18
バーコードとスキャン動作について	18
原稿ガラスにセットした原稿をスキャンして保存する	19
自動原稿送り装置を使って原稿をスキャンして保存する	22
困ったときは	24

このアプリケーションについて

e-BRIDGE Plus for Barcode Scan（本書では以降「このアプリケーション」と称します）は東芝デジタル複合機（本書では「本機」と称します）にインストールして利用するアプリケーションです。文書内のページ上に付けたバーコードをスキャンし、外部ファイルサーバー内の共有フォルダに以下のいずれかの方法で文書を保存します。

- バーコードの内容と同じファイル名を付けて共有フォルダに保存する
- 共有フォルダ内にあるバーコードの内容と同じ名前のフォルダを探して（見つからない場合は同名のフォルダを新規に作成して）、そのフォルダ内に保存する

これにより、共有フォルダに文書を保存する際に、ユーザがファイル名を付けたり、保存先フォルダを選択する手間を省くことができます。さらに、複数の文書をまとめてスキャンしても、各文書の最初または最後のページのバーコードを認識して、複数文書を複数ファイルに分割して保存できるので、文書ごとに分けてスキャンする必要がありません。管理者が設定をプリセットしておくことで、ユーザはプリセットされた設定を選択するだけで文書をスキャンして保存できます。

■ 管理者への説明

管理者は、以下の項目を確認してからこのアプリケーションをセットアップしてください。準備やセットアップにはTopAccessを使用しますので、操作方法や設定画面について詳しくは**TopAccessガイド**を参照してください。

□ チェックポイント

はじめに、管理者は以下の点を確認してください。

- バーコードの内容を読み取るため、本機にOCRオプション（ライセンス）がインストールされている必要があります。
- 本機をネットワーク環境に接続し、外部ファイルサーバーに共有フォルダを作成しておく必要があります。ファイル転送にはSMBプロトコルを使用します。TopAccessからファイル共有機能をあらかじめ設定してください。
- 本機はスキャンした文書を強制的に暗号化PDF（セキュアPDF）として保存するように設定できます。これを暗号化PDF強制モードと呼びます。このアプリケーションを使う場合は、暗号化PDF強制モードを無効にしてください。

□ セットアップ

ユーザがこのアプリケーションを本機で利用できるように、管理者はTopAccessを使ってあらかじめ準備する必要があります。本書は以下のセットアップ手順を説明します。管理者は以下の各説明を順にお読みいただき、このアプリケーションをセットアップしてください。

1. このアプリケーションを本機にインストールします。
☞ P.7 「本機にこのアプリケーションをインストールする」
2. ユーザが操作パネルから簡単に文書をスキャンして保存できるように、いくつかの機能をまとめてプリセットします。本書では、プリセットされた複数の機能をまとめて「ジョブ」と呼びます。
☞ P.8 「文書をスキャンして保存するためのジョブを設定する」
3. 操作パネルのホーム画面にこのアプリケーションを登録します。
☞ P.16 「操作パネルのホーム画面にこのアプリケーションを登録する」

管理者もユーザとして文書をスキャンして共有フォルダに保存できますので、下記のユーザ向け操作手順もお読みください。また、トラブルが発生した場合は、その対象方法をお読みください。

■ ユーザへの説明

このアプリケーションを使えば、管理者があらかじめ設定したジョブ（必要な複数設定の総称）を操作パネルから選択するだけで、ユーザは文書をスキャンして共有フォルダに保存できます。

- スキャンの操作方法は、本書の以下のページを参照してください。
☞ P.18 「ジョブを選択して文書をスキャン・保存する」
- トラブルが発生した場合は、本書の以下のページを参照してください。
☞ P.24 「困ったときは」

このアプリケーションを使用できるように準備する

管理者は、以下の手順に従ってこのアプリケーションをセットアップしてください。

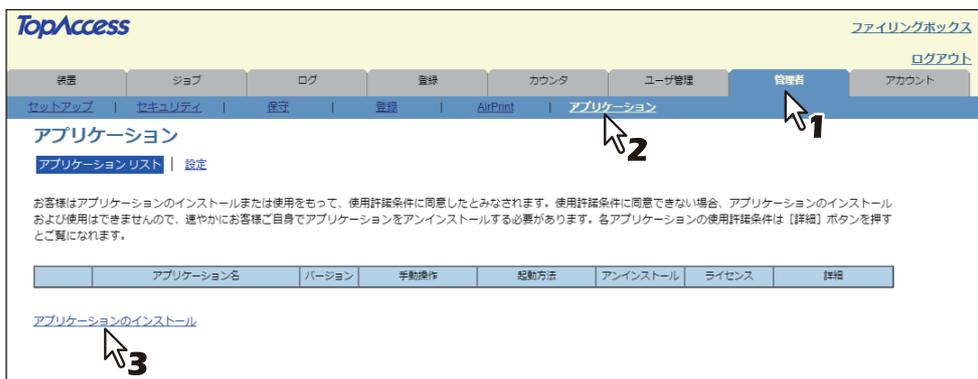
■ 本機にこのアプリケーションをインストールする

本機のTopAccessからこのアプリケーションをインストールします。

注意

アプリケーションをインストールするには、管理者権限でTopAccessにログインする必要があります。TopAccessの操作方法については、**TopAccessガイド**をご参照ください。

- 1 TopAccessを起動して、管理者としてログインします。
- 2 [管理者] タブ > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] > [アプリケーションのインストール] を選択します。



- 3 [ファイルを選択*] をクリックしてe-BRIDGE Plus for Barcode Scanのインストールファイルを選択し、[インポート] をクリックしたら画面の指示に従ってインストールします。

* [ファイルを選択] のボタン名称は、ブラウザによって異なります。



補足

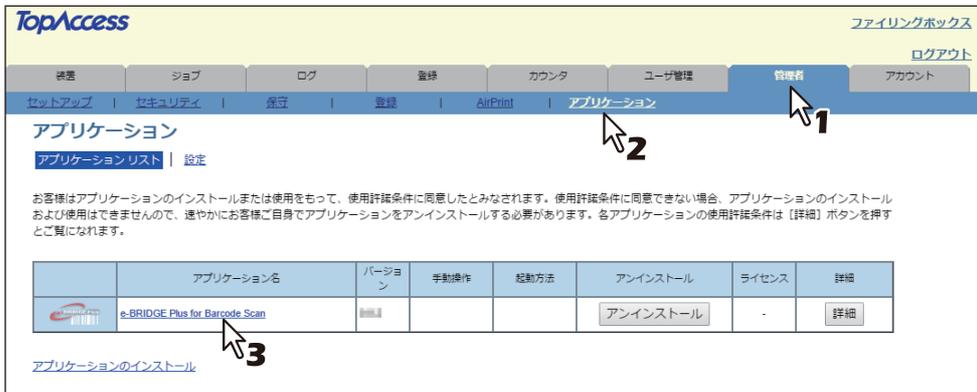
[アプリケーションリスト] に登録したこのアプリケーションに対して、以下のボタンを操作できます。

- [アンインストール] を選択すると、このアプリケーションを本機から削除できます。
- [詳細] を選択すると、このアプリケーションの詳細情報を確認できます。

■ 文書をスキャンして保存するためのジョブを設定する

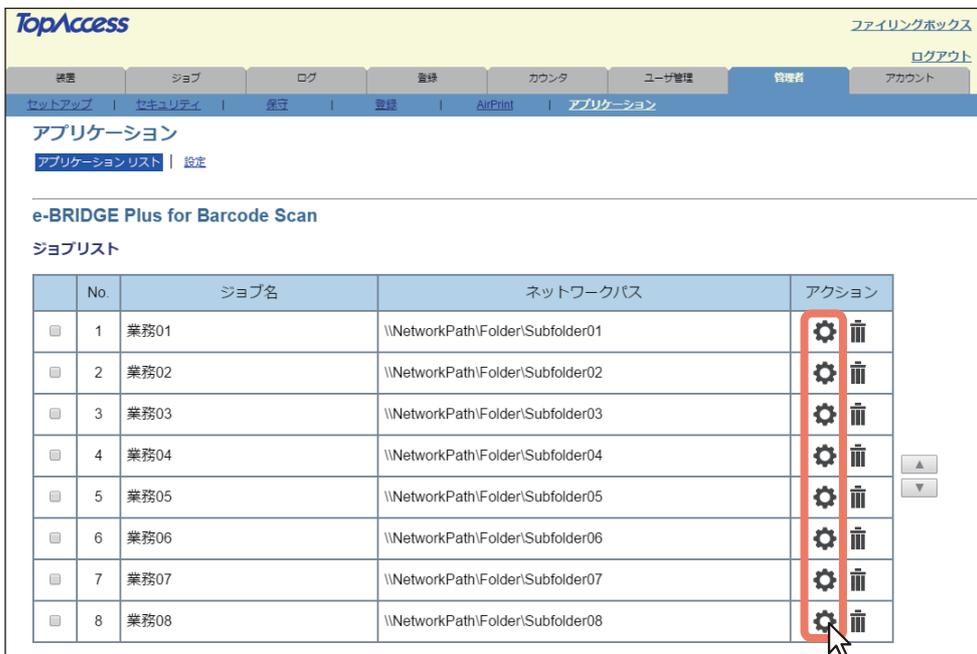
ユーザが簡単に文書をスキャンして保存できるように、管理者はTopAccessから機能をジョブとしてまとめてプリセットします。

- 1 TopAccessを起動して、管理者としてログインします。
- 2 [管理者] タブ > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] > [e-BRIDGE Plus for Barcode Scan] を選択します。



- 3 ジョブを設定したい [ジョブリスト] 番号の ⚙️ をクリックします。

- 最大8つのジョブを登録できます。
- ⚙️ (歯車) をクリックすると、ジョブを新規作成または変更できます。
- 🗑️ (ごみ箱) をクリックすると、ジョブを削除できます。確認メッセージが表示されたら、[OK] をクリックして削除を実行するか、[Cancel] をクリックして操作をやめます。
- ジョブを選択して ▲ (上向き矢印) または ▼ (下向き矢印) をクリックすると、[ジョブリスト] と操作パネルでのジョブの掲載順序を変更できます。



4 [ジョブ設定] 画面で、文書のスキャンと保存に必要な機能をまとめて設定します。

ジョブ名、ジョブアイコン、ネットワークパスなどの機能を設定できます（以降、機能名以外の説明内の**強調文字**は初期設定を表します）。詳細は、以下のページを参照してください。

- 基本：ジョブ名、概要、ジョブアイコン
 〓 P.10 「基本」
- 保存先：ネットワークパス、ログインユーザ名、パスワード、接続テスト
 〓 P.11 「保存先」
- スキャン設定：ファイル形式（PDF、JPEG、TIFF マルチ、TIFF シングル）、カラーモード（白黒、グレースケール、フルカラー、自動カラー選択）、解像度（600dpi、400dpi、**300dpi**、200dpi）、両面（片面、両面（左/右とじ）、両面（上/下とじ））、原稿モード（**文字**、文字/写真、ブルー原稿）、詳細（下地調整、コントラスト、シャープネス、各初期値：**0**）
 〓 P.11 「スキャン設定」
- バーコード認識設定：バーコード種別、セパレータページ除去
 〓 P.12 「バーコード認識設定」
- バーコードによるファイルの分割とファイル名・フォルダ分類方法：バーコードにより複数文書をファイルに分割する機能（「**バーコードのあるページの手前でファイルを分割する。**」など）、バーコードによりファイルを命名するか保存先フォルダを検索する機能（「**バーコードをファイル名に利用する。**」など）
 〓 P.13 「バーコードによるファイルの分割とファイル名・フォルダ分類方法」

[ジョブリスト] をクリックすると、[ジョブリスト] 画面へ戻ります。

5 設定が終了したら [保存] をクリックします。

[キャンセル] をクリックすると、設定を破棄して [ジョブリスト] 画面に戻ります。

6 別のジョブを設定するには、上記手順3~5を繰り返します。

□ 基本

ジョブの基本的な情報を入力します。



ジョブ名

操作パネルに表示するジョブの名前（最大32文字）を必ず入力します。

補足

ユーザが操作パネルでジョブを選択する際に、使用方法が分かりやすい名前を付けてください。

概要

ジョブ設定の概要（最大1,024文字）を入力します。

補足

ユーザはジョブ実行画面から開く [ジョブ プロパティ] 画面でこの概要を読むことができます。設定の詳細など、ユーザに分かりやすい説明にしてください。

選択

操作パネルに表示するジョブのアイコンを必ず選択します。[選択] をクリックすると、[アイコン選択] 画面が表示されます。アイコンを選択してから、[保存] を押して画面を閉じます。[キャンセル] をクリックすると、選択を破棄して画面を閉じます。



□ 保存先

スキャンした文書の保存先をジョブで設定します。

保存先	
ネットワークパス	(入力が必要です)
ログインユーザ名	
パスワード	
接続テスト	実行

ネットワークパス

スキャンした文書をファイルとして保存する共有フォルダを指定するネットワークパス（最大128文字）を必ず入力します（SMBプロトコルでファイルを送信できる共有フォルダを必ず指定します）。なお、次の文字は入力できません。

" * ; < > ? |

ログインユーザ名

共有フォルダにアクセスできるユーザのログイン名（最大32文字）を入力します。なお、次の文字は入力できません。

", . ; < >

パスワード

共有フォルダにアクセスできるユーザのパスワード（最大32文字）を入力します。入力時、パスワードはピュレット（・）で表示されます。

接続テスト

[実行] をクリックすると、[ネットワークパス]、[ログインユーザ名]、[パスワード] で指定した保存先に接続できるかテストできます。

□ スキャン設定

どのように文書をスキャンするかをジョブで設定します。

スキャン設定	
ファイル形式	PDF
カラーモード	白黒
解像度	300dpi
両面	片面
原稿モード	文字
▼ 詳細	
下地調整	0 4
コントラスト	0 4
シャープネス	0 4

ファイル形式

文書を保存するファイルの形式を [PDF]、[JPEG]、[TIFF マルチ]、[TIFF シングル] から選択します。

カラーモード

スキャンする文書のカラーモードを選択します。

- [PDF] または [TIFF シングル] ファイル形式選択時は、[白黒]、[グレースケール]、[フルカラー]、[自動カラー選択] から選択します。
- [JPEG] ファイル形式選択時は、[グレースケール]、[フルカラー] から選択します。
- [TIFF マルチ] ファイル形式選択時は、[白黒]、[グレースケール]、[フルカラー] から選択します。

解像度

文書をスキャンする解像度を [600dpi]、[400dpi]、[300dpi]、[200dpi] から選択します。

両面

スキャンする文書の面を [片面]、[両面 (左/右とじ)]、[両面 (上/下とじ)] から選択します。

原稿モード

- スキャンする文書の画質モードを [文字]、[文字/写真]、[ブルー原稿] から選択します。
- [カラーモード] および機種によって、選択できる項目が異なります。[グレースケール] カラーモード選択時は、原稿モードを選択できません。

詳細

[詳細] の隣にある三角形アイコンをクリックすると、[下地調整]、[コントラスト]、[シャープネス] が現れます。各スキャン設定は、丸ボタンのいずれかをクリックして、-4から4まで9段階（初期値0）に調整できます。

バーコード認識設定

バーコードの種類や、バーコードのあるページの処理方法を設定します。

バーコード認識設定	
バーコード種別	自動
セパレータページ除去	無効

有効の場合、ファイル分割に用いたバーコード付きページが保存される画像から除去されます。

バーコード種別

バーコードの種類を [自動]、[1D]、[2D]、[Code 39]、[Code 93]、[Code 128]、[Codabar]、[IATA 2 of 5]、[Interleaved 2 of 5]、[Industrial 2 of 5]、[Matrix 2 of 5]、[UCC-128]、[UPC-A]、[UPC-E]、[Patch]、[Aztec]、[DataMatrix]、[MaxiCode]、[PDF417]、[QRCode]、[EAN-8]、[EAN-13] から選択します。

注意

バーコードの種類を選択しても、選択した以外のバーコードを誤認識する場合があります。

補足

[自動] を選択すると、バーコードの種類を自動的に認識します。種別があらかじめ分かっている場合は、その種別を選択することでよりはやくバーコードを認識できます。

セパレータページ除去

スキャンしたファイルをバーコードの付いたページで分割して保存する設定にした場合は、セパレータページ（ファイルの分割に利用したバーコード付きページ）を保存するか、または除去するかを選択します。

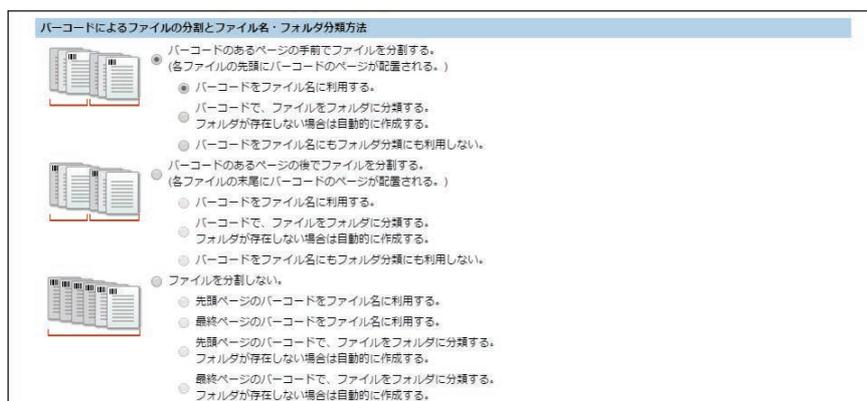
- [有効]：セパレータページを除去して保存します。
- [無効]：セパレータページを他のスキャンしたページと一緒に保存します。

注意

- [有効] に設定した場合は、すべてのページにバーコードが付いているファイルは保存されません。
- ファイルを分割しない設定の場合は、バーコードが付いているページも保存されます。

□ バーコードによるファイルの分割とファイル名・フォルダ分類方法

複数の文書をまとめて一括スキャンできるようにするため、スキャンした文書のファイル分割方法、ファイルの命名方法、ファイルの保存先フォルダの選択方法を定める必要があります。ジョブでは、以下の機能を選択できます。



バーコードのあるページの手前でファイルを分割する。 (各ファイルの先頭にバーコードのページが配置される。)

この機能を選択すると（初期状態はオン）、バーコードを配置したページを各文書の先頭ページとして、ファイルを分割します。ファイルやフォルダの命名方法や保存先フォルダの検索方法は、以下の3つの中から選択できます。

● バーコードをファイル名に利用する。

この機能を選択すると（初期状態はオン）、保存するファイル（またはフォルダ）に、スキャンしたバーコードの内容と同じ名前を付けます。

[PDF] または [TIFF マルチ] ファイル形式選択時は、[ネットワークパス] で指定したフォルダ内に、バーコードの内容と同じ名前を付けて、文書をPDFファイルまたはマルチページTIFFファイルとして保存します。

例：ABCD.pdf、EFGH.pdf

[JPEG] または [TIFF シングル] ファイル形式選択時は、[ネットワークパス] で指定したフォルダ内にバーコードの内容と同じ名前の新しいサブフォルダを作成し、そのサブフォルダ内に各文書のすべてのページを個別のJPEGファイルまたは個別のシングルページTIFFファイルに分割して保存します。ファイルは以下の形式で命名されます。

Page-####.jpg（「####」は4桁の数字）

例：ABCD（バーコードより命名した新規サブフォルダ）

Page-0001.jpg、Page-0002.jpg

バーコードに同じ内容があり重複する場合は、ファイル名またはフォルダ名の末尾に4桁の数字を付けて区別します。

例：ABCD.pdf、ABCD-0001.pdf

- **バーコードで、ファイルをフォルダに分類する。**

- **フォルダが存在しない場合は自動的に作成する。**

この機能を選択すると（初期状態は**オフ**）、スキャンしたバーコードの内容と同名のフォルダを、[ネットワークパス]で指定したフォルダ内で探し、見つかったフォルダ内に文書を保存します。同名フォルダが見つからない場合は、その名前のフォルダを新たに作成して、その中に文書を保存します。

[PDF] または [TIFF マルチ] ファイル形式選択時は、見つかったフォルダまたは新たに作成されたフォルダ内に、後述の形式で名前を付けてPDFファイルまたはマルチページTIFFファイルとして文書を保存します。

例：ABCD（バーコードを認識した結果見つかったフォルダまたは新たに作成されたフォルダ）
DOC170414150710-MFP11111.pdf

[JPEG] または [TIFF シングル] ファイル形式選択時は、見つかったフォルダまたは新たに作成されたフォルダ内に、後述の形式で名前を付けてサブフォルダを作成し、そのサブフォルダ内に各文書のすべてのページを個別のJPEGファイルまたは個別のシングルページTIFFファイルに分割して文書を保存します。ファイルは以下の形式で命名されます。

Page-#####.jpg（「#####」は4桁の数字）。

例：DOC170414150710-MFP11111（規定の形式で命名された新規サブフォルダ）
Page-0001.jpg、Page-0002.jpg

ファイルやフォルダは、以下の形式で命名されます。

DOCYYMMDDhhmmss-デバイス名

「YYMMDDhhmmss」は、スキャンを開始した年月日時分秒を表します。

例：DOC170414150710-MFP11111.pdf

同じ時間に同じジョブでスキャンした文書のバーコードが同じ内容で重複する場合は、ファイル名またはフォルダ名の末尾に4桁の数字を付けて区別します。時をずらしてスキャンした文書の場合は、異なる名前（YYMMDDhhmmss）で区別できますので、4桁数字は付きません。

例：DOC170414150710-MFP11111、DOC170414150710-MFP11111-0001

- **バーコードをファイル名にもフォルダ分類にも利用しない。**

この機能を選択すると（初期状態は**オフ**）、スキャンしたバーコードの内容を利用しません（バーコードの内容から、ファイルやフォルダに名前を付けたり保存先フォルダを探したりしません）。

[PDF] または [TIFF マルチ] ファイル形式選択時は、[ネットワークパス]で指定したフォルダ内に、後述の形式で名前を付けてPDFファイルまたはマルチページTIFFファイルとして文書を保存します。

例：DOC170414150710-MFP11111.pdf

[JPEG] または [TIFF シングル] ファイル形式選択時は、[ネットワークパス]で指定したフォルダ内に、後述の形式で名前を付けてサブフォルダを作成し、そのサブフォルダ内に各文書のすべてのページを個別のJPEGファイルまたは個別のシングルページTIFFファイルに分割して文書を保存します。ファイルは以下の形式で命名されます。

Page-#####.jpg（「#####」は4桁の数字）。

例：DOC170414150710-MFP11111（規定の形式で命名された新規サブフォルダ）
Page-0001.jpg、Page-0002.jpg

ファイルやフォルダは、以下の形式で命名されます。

DOCYYMMDDhhmmss-デバイス名

「YYMMDDhhmmss」は、スキャンを開始した年月日時分秒を表します。

例：DOC170414150710-MFP11111.pdf

同じ時間に同じジョブでスキャンした文書のバーコードが同じ内容で重複する場合は、ファイル名またはフォルダ名の末尾に4桁の数字を付けて区別します。時をずらしてスキャンした文書の場合は、異なる名前（YYMMDDhhmmss）で区別できますので、4桁数字は付きません。

例：DOC170414150710-MFP11111、DOC170414150710-MFP11111-0001

バーコードのあるページの後でファイルを分割する。 (各ファイルの末尾にバーコードのページが配置される。)

この機能を選択すると（初期状態は**オフ**）、バーコードを配置したページを各文書の最終ページとして、ファイルを分割します。ファイルやフォルダの命名方法や、保存先フォルダの検索方法は、以下の設定の場合と同じです。

 P.13 「バーコードのあるページの手前でファイルを分割する。（各ファイルの先頭にバーコードのページが配置される。）」

ファイルを分割しない。

この機能を選択すると（初期状態は**オフ**）、バーコードを配置したページにかかわらず、複数文書をまとめて1つのファイルとして保存します。ファイルやフォルダの命名方法や保存先フォルダの検索方法は、以下の4つの中から選択できます。

• 先頭ページのバーコードをファイル名に利用する。

この機能を選択すると（初期状態は**オン**）、保存するファイル（またはフォルダ）に、スキャンした先頭ページにあるバーコードの内容と同じ名前を付けます。

[PDF] または [TIFF マルチ] ファイル形式選択時は、[ネットワークパス] で指定したフォルダ内に、バーコードの内容と同じ名前を付けて、文書をPDFファイルまたはマルチページTIFFファイルとして保存します。

例：ABCD.pdf、EFGH.pdf

[JPEG] または [TIFF シングル] ファイル形式選択時は、[ネットワークパス] で指定したフォルダ内にバーコードの内容と同じ名前の新しいサブフォルダを作成し、そのサブフォルダ内にすべての文書のすべてのページを個別のJPEGファイルまたは個別のシングルページTIFFファイルに分割して保存します。ファイルは以下の形式で命名されます。

Page-####.jpg（「####」は4桁の数字）

例：ABCD（バーコードより命名した新規サブフォルダ）

Page-0001.jpg、Page-0002.jpg

• 最終ページのバーコードをファイル名に利用する。

この機能を選択すると（初期状態は**オフ**）、保存するファイル（またはフォルダ）に、スキャンした最終ページにあるバーコードの内容と同じ名前を付けます。ファイル（またはフォルダ）の命名方法は、以下の設定の場合と同じです。

 P.15 「先頭ページのバーコードをファイル名に利用する。」

• 先頭ページのバーコードで、ファイルをフォルダに分類する。

フォルダが存在しない場合は自動的に作成する。

この機能を選択すると（初期状態は**オフ**）、スキャンした先頭ページのバーコードの内容と同名のフォルダを、[ネットワークパス] で指定したフォルダ内で探し、見つかったフォルダ内に文書を保存します。同名フォルダが見つからない場合は、その名前のフォルダを新たに作成して、その中に文書を保存します。

[PDF] または [TIFF マルチ] ファイル形式選択時は、見つかったフォルダまたは新たに作成されたフォルダ内に、後述の形式で名前を付けてPDFファイルまたはマルチページTIFFファイルとして文書を保存します。

例：ABCD（バーコードを認識した結果見つかったフォルダまたは新たに作成されたフォルダ）

DOC170414150710-MFP11111.pdf

[JPEG] または [TIFF シングル] ファイル形式選択時は、見つかったフォルダまたは新たに作成されたフォルダ内に、後述の形式で名前を付けてサブフォルダを作成し、そのサブフォルダ内にすべての文書のすべてのページを個別のJPEGファイルまたは個別のシングルページTIFFファイルに分割して文書を保存します。ファイルは以下の形式で命名されます。

Page-####.jpg（「####」は4桁の数字）

例：DOC170414150710-MFP11111（規定の形式で命名された新規サブフォルダ）

Page-0001.jpg、Page-0002.jpg

ファイルやフォルダは、以下の形式で命名されます。
DOCYYMMDDhhmmss-デバイス名
「YYMMDDhhmmss」は、スキャンを開始した年月日時分秒を表します。
例：DOC170414150710-MFP111111.pdf

- 最終ページのバーコードで、ファイルをフォルダに分類する。

フォルダが存在しない場合は自動的に作成する。

この機能を選択すると（初期状態はオフ）、スキャンした最終ページのバーコードの内容と同名のフォルダを、[ネットワークパス]で指定したフォルダ内で探し、見つかったフォルダ内に文書を保存します。同名フォルダが見つからない場合は、その名前のフォルダを新たに作成して、その中に文書を保存します。ファイルやフォルダの命名方法は、以下の設定の場合と同じです。

☞ P.15 「先頭ページのバーコードで、ファイルをフォルダに分類する。フォルダが存在しない場合は自動的に作成する。」

■ 操作パネルのホーム画面にこのアプリケーションを登録する

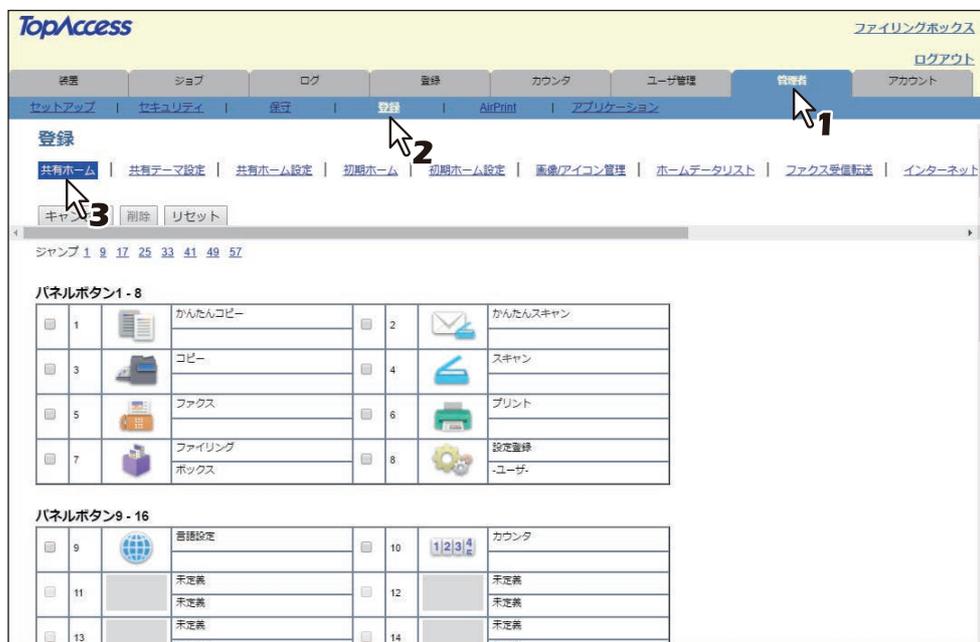
ユーザが本機の操作パネルからこのアプリケーションを利用できるように、操作パネルまたはTopAccessからこのアプリケーションを登録します。本書では、TopAccessからの登録方法を説明します。詳しくは、TopAccessガイドの第8章「[管理者] タブ」 - 「[登録]（[管理者] タブ）項目説明一覧」を参照してください。操作パネルのホーム画面設定ボタンからこのアプリケーションを登録するには、**かんたん操作ガイド**の「ホーム画面の基本操作」 - 「機能を登録する」を参照してください。

注意

このアプリケーションを登録するためのTopAccessの [登録] メニューへは、[管理者] タブからアクセスポリシーモードで管理権限が設定されている管理者だけがアクセスできます。

1 TopAccessを起動して、管理者としてログインします。

2 [管理者] タブ > [登録] > [共有ホーム] を選択します。

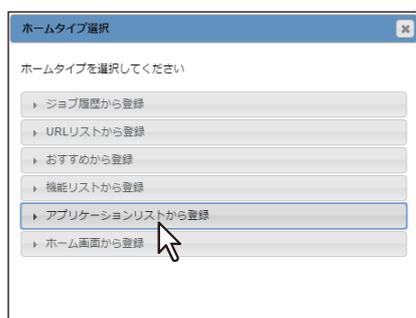


3 このアプリケーションを登録したいパネルボタン位置まで移動して選択し、リンクをクリックします。

[ジャンプ] の番号をクリックすると、その位置を含むリストへ直接移動します。



4 [ホームタイプ選択] 画面から [アプリケーションリストから登録] を選択します。



5 [アプリケーションリストから登録] 画面から [e-BRIDGE Plus for Barcode Scan] を選択します。



6 [設定編集] 画面で [保存] をクリックします。

[キャンセル] をクリックすると、登録せずに [設定編集] 画面を閉じます。



ジョブを選択して文書をスキャン・保存する

ユーザは、管理者がプリセットしたジョブを操作パネルで選択（最大8つのジョブの中から1つ選択）するだけで、文書をスキャンして共有フォルダに保存できます。原稿を本機の原稿ガラスにセットするか自動原稿送り装置にセットするかで、操作手順が異なります。

補足

バーコードの作成方法とジョブの選択について分からない場合は、管理者にご相談ください。

■ バーコードとスキャン動作について

バーコードと設定がスキャン動作に及ぼす影響について説明します。作業を始める前に、以下の説明をお読みください。バーコードの作成方法、ジョブの選択、操作パネルの設定方法や操作方法について分からない場合は、管理者にご相談ください。

- バーコードで認識した保存先フォルダのパスに空白（スペース）がある場合は、空白（スペース）がアンダースコアに変換されます。
- バーコードの文字情報は、OCR第1言語で指定した言語で認識されます。
- 暗号化されたバーコードが読み込まれた場合は、復号化されない結果のまま認識されます。
- 制御コード等で認識に失敗した場合は、「NotRecognized-YYMMDDhhmmss」として認識されます。
- バーコードにスタート・ストップデジットが含まれていても、その情報は認識されません。
- バーコードにチェックデジットが含まれていても、その情報はチェックされません。
- 操作パネルの [設定/登録] - [スキャン設定] で設定する「白紙ページ除去」機能を有効にしても白紙ページは保存されます。

■ 原稿ガラスにセットした原稿をスキャンして保存する

原稿ガラスに原稿をセットする場合は、以下の手順で文書をスキャンして共有フォルダに保存します。

1 最初のページを原稿ガラスにセットします。

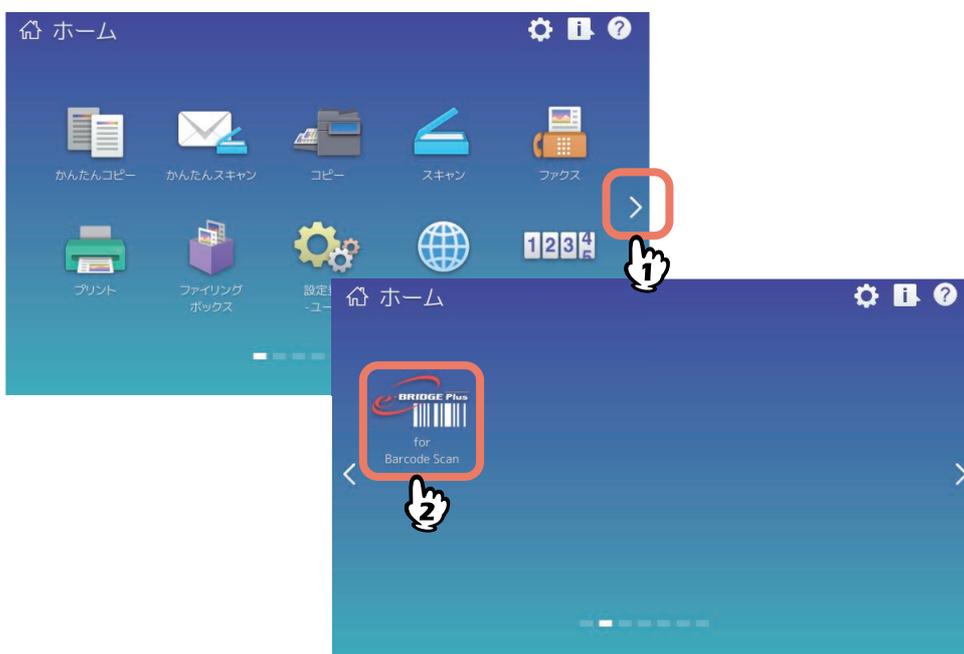
複数の文書（ページ）をスキャンしたい場合は、1ページずつセットします。以降途中でページを変えながら操作し、すべての文書（ページ）をスキャンして保存します。

注意

ページ上のバーコードが1つであれば、ページのどこに配置されていても認識されます。ページ内に複数のバーコードがある場合は、上方のバーコードを優先して認識します。ほぼ同じ高さにある場合には、左側にあるバーコードを優先して認識します。

2 操作パネルの （[ホーム] ボタン）を押します。

3 このアプリケーションのアイコンを探して押します。



注意

[ユーザ認証] 画面が表示されたら、[ユーザ名] と [パスワード] を入力して、[OK] を押します。必ずスキャンとファイル保存の権限があるユーザとしてログインしてください。

4 ジョブのアイコンを押します。



5 セットしたページ（バーコードの配置ページ）を確認し、必要に応じて [ジョブ プロパティ] や [認識結果確認] を押します。



- 管理者が以下の機能をジョブとしてあらかじめ設定しています。[ジョブ プロパティ] を押すと、ジョブの概要と設定を確認できます。確認後は、[X] を押して画面を閉じます。設定が分からない場合は、以下の参照先をお読みいただくか、管理者にご相談ください。
 - ジョブ名、概要
P.10 「基本」
 - 保存先：ネットワークパス
P.11 「保存先」
 - 保存方法：バーコードにより複数文書をファイルに分割する機能（分割対象ページの選択）、バーコードによりファイルを命名するか保存先フォルダを検索する機能
P.13 「バーコードによるファイルの分割とファイル名・フォルダ分類方法」
 - 両面：片面、両面（左/右とじ）、両面（上/下とじ）
P.11 「スキャン設定」
- 選択したジョブの設定に合わせて、バーコードが正しいページ（最初または最後のページ）に配置されているか確認します。操作パネルの画面に表示されるイラストを参考にしてください。
- [認識結果確認] を押してボタンの色を変え、この機能のオン（青色）またはオフ（灰色）を切り替えます（初期状態は**オフ**）。
 - この機能をオン（青色ボタン）にすると、手順10で文書のスキャンが終了した時点で認識結果確認画面が表示されます。文書を保存する前にバーコードの認識結果を確認できます。
 - この機能をオフ（灰色ボタン）にすると、スキャン終了時点で認識結果確認画面を表示せず、すぐに文書保存を開始します。

補 足

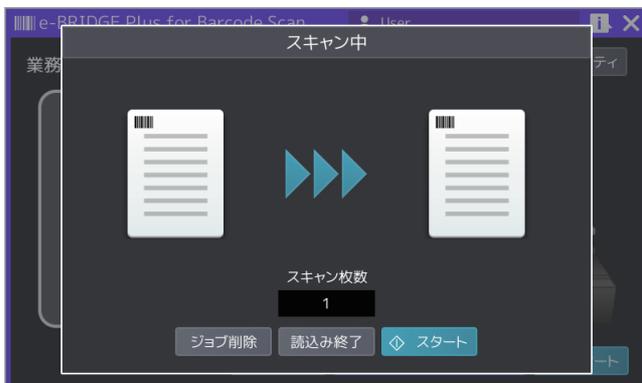
ユーザ認証が有効の場合は、[認識結果確認] の設定をユーザごとに記憶します。次回ログイン時に、同じ設定を引き継ぎます。

- [キャンセル] を押すと、操作を終了します。手順11または12へ進みます。

6 [スタート]（または操作パネルの [スタート] ボタン）を押して、ページのスキャンを開始します。

- 7 ページのスキャンが終了すると [スキャン中] 画面が表示されます。1ページだけスキャンする場合は手順10へ進みます。続けて複数ページをスキャンするには、次ページを原稿ガラスにセットしてから次の手順へ進みます。

[ジョブ削除] を押すと、操作を終了します。手順11または12へ進みます。



- 8 次ページをセットしたら、[スタート]（または操作パネルの [スタート] ボタン）を押してスキャンを開始します。

補足

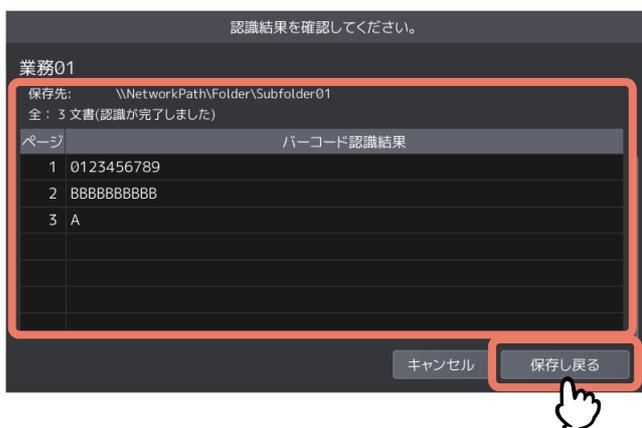
異なるサイズのページをセットできます。

- 9 最後のページをスキャンし終えるまで、上記手順7と8を繰り返します。複数の文書（ページ）をすべてスキャンし終えるまで、手順を繰り返します。

- 10 スキャンが終了したら [読み込み終了] を押します。

以下のいずれの場合も、操作が終了したら手順11または12へ進みます。

- 手順5で [認識結果確認] 機能をオフ（灰色ボタン）にした場合は、認識結果確認画面を表示しないで、すぐに文書保存を開始します。
- 手順5で [認識結果確認] 機能をオン（青色ボタン）にした場合は、認識結果確認画面が表示されます。バーコードを認識したページとバーコードの内容を確認してから、以下のいずれかのボタンを押します。
 - [保存し戻る] を押すと、スキャンした文書の保存を開始します。
 - [キャンセル] を押すと、スキャンした文書を破棄して操作を終了します。



補足

スキャンした全文書数は、バーコードの認識を失敗した文書数も含まれます。[バーコード認識結果] リストを確認してください。問題があれば、スキャンログまたはアプリケーションログでエラーメッセージを確認するか、管理者にご相談ください。

📖 P.24 「困ったときは」

11 ジョブの選択画面が表示されたら、手順4へ戻ってその他の文書（ページ）をスキャンするか、次の手順へ進んで操作を終了します。

12 操作が終了したら、操作パネルの （[ホーム] ボタン）を押して操作画面から抜けます。

■ 自動原稿送り装置を使って原稿をスキャンして保存する

操作手順や利用できる機能は、原稿を原稿ガラスにセットする場合と基本的に同じです。

 P.19 「原稿ガラスにセットした原稿をスキャンして保存する」

1 文書を自動原稿送り装置にセットします。

複数の文書をまとめてセットできます。

注意

- ページ上のバーコードが1つであれば、ページのどこに配置されていても認識されます。ページ内に複数のバーコードがある場合は、上方のバーコードを優先して認識します。ほぼ同じ高さにある場合には、左側にあるバーコードを優先して認識します。
- 異なるサイズの文書をセットした場合はスキャンできません。

2 操作パネルの （[ホーム] ボタン）を押します。

3 このアプリケーションのアイコンを探して押します。

4 文書管理ルールに応じて、ジョブのアイコンを押します。

5 セットした原稿（バーコードの配置ページ）を確認し、必要に応じて [ジョブ プロパティ] や [認識結果確認] を押します。

[キャンセル] を押すと、操作を終了します。手順8または9へ進みます。

補足

ユーザ認証が有効の場合は、[認識結果確認] の設定（初期状態はオフ）をユーザごとに記憶します。次回ログイン時に、同じ設定を引き継ぎます。

6 [スタート]（または操作パネルの [スタート] ボタン）を押して、文書のスキャンを開始します。

- スキャン途中で [ストップ] を押さない限り、すべてのページを連続してスキャンし、スキャンは自動的に終了します。手順7へ進みます。
- スキャン途中で [ストップ] を押した場合は [スキャン中] 画面が表示されます。必要に応じて、以下のいずれかのボタンを押します。
 - [スタート]（または操作パネルの [スタート] ボタン）を押すと、スキャン操作が再開します。残りの文書のスキャンが終了したら、手順7へ進みます。
 - [読み込み終了] を押すと、スキャンを終了します。ここまでスキャンが終了している文書は保存されます。手順7へ進みます。
 - [ジョブ削除] を押すと、スキャンを終了します。スキャンされたページは保存されません。手順8へ進みます。

7 スキャンが完了したら、次のいずれかに従います。

- 手順5で [認識結果確認] 機能をオフ（灰色ボタン）にした場合は、認識結果確認画面を表示しないで、すぐに文書保存を開始します。手順8または9へ進みます。
- 手順5で [認識結果確認] 機能をオン（青色ボタン）にした場合は、認識結果確認画面が表示されます。バーコードを認識したページとバーコードの内容を確認できます。以下のいずれかのボタンを押してから、手順8または9へ進みます。
 - [保存し戻る] を押すと、文書保存を開始します。
 - [キャンセル] を押すと、スキャンした文書を破棄して操作を終了します。

補足

スキャンした全文書数は、バーコードの認識を失敗した文書数も含まれます。[バーコード認識結果] リストを確認してください。問題があれば、スキャンログまたはアプリケーションログでエラーメッセージを確認するか、管理者にご相談ください。

📖 P.24 「困ったときは」

8 ジョブの選択画面が表示されたら、手順4へ戻ってその他の文書をスキャンするか、次の手順へ進んで操作を終了します。

9 操作が終了したら、操作パネルの ([ホーム] ボタン) を押して操作画面から抜けます。

困ったときは

TopAccessのスキャンログやアプリケーションログに、操作状況が記録されます。困ったときは、ログと以下の説明を参考にトラブルを解消してください。ユーザがトラブルの状況や対処方法が分からない場合は、管理者にご相談ください。

操作パネルにメッセージが表示されたら、内容を確認して対処してください。メッセージ画面は、[OK]を押すと閉じます。下表の「-」は、メッセージが表示されないことを表しています。

メッセージ	トラブルの状況と対処方法
アプリケーションが存在しないか、実行中です。	このアプリケーションを本機にインストールする際に、このエラーメッセージが表示されます。本機にこのアプリケーションをインストールできません。
正しい文字を入力してください。	ジョブを設定して保存する際に、このメッセージが表示されず。 ジョブ設定の[ネットワークパス]に使用できない文字（" * ; < > ? ）を使うと、ジョブを保存する際エラーになります。 また[ログインユーザ名]に使用できない文字（" , ; < >）を使うと、ジョブを保存する際エラーになります。管理者は、ネットワークパス、ログインユーザ名を確認して、禁止文字を含まないように入力し直してください。
必要な設定を入力してください。	ジョブを設定して保存する際に、このメッセージが表示されず。 管理者はジョブ名、ネットワークパス、アイコンを入力してください。
接続に失敗しました。 以下の設定を確認してください。 ネットワークパス ログインユーザ名 パスワード	[保存先]の[接続テスト]で[実行]をクリックした際、指定した保存先に接続できません。 [ネットワークパス]、[ログインユーザ名]、[パスワード]を確認してください。
登録されたジョブがありません。管理者に登録を依頼してください。	操作パネルからこのアプリケーションを起動しようとして、このメッセージが表示されます。 ジョブが設定されていないと、このアプリケーションは起動しません。ジョブを設定するように、管理者に依頼してください。
セキュアPDFの強制暗号化が有効になっているため、動作できません。	操作パネルからこのアプリケーションを起動しようとして、このメッセージが表示されます。 スキャンした文書を強制的に暗号化PDF（セキュアPDF）として保存するように本機を設定している場合は、このアプリケーションを利用できません。暗号化PDF強制モードは必ず無効に切り替えるよう管理者に依頼してください。
OCRオプションが必要です。	操作パネルからこのアプリケーションを起動しようとして、このメッセージが表示されます。 本機にOCRオプション（ライセンス）がインストールされていないと、このアプリケーションは起動しません。OCRオプション（ライセンス）をインストールするように、管理者に依頼してください。
スキャン（ローカルHDDへの保存）の実行権限がない、またはこの機能が無効です。	操作パネルからこのアプリケーションを起動しようとして、このメッセージが表示されます。 ユーザに権限がなく保存機能が無効の場合は、このアプリケーションは起動しません。TopAccessから以下の設定をするよう管理者に依頼してください。 <ul style="list-style-type: none"> 文書をスキャンして保存したいユーザには、[スキャン機能] <ul style="list-style-type: none"> [ローカル保存] 権限のあるロールを割り当ててください。 [管理者] - [セットアップ] - [一般] - [機能設定] にアクセスし、[ローカルHDDへ保存] を有効にしてください。

メッセージ	トラブルの状況と対処方法
リモート保存の実行権限がない、またはこの機能が無効です。	<p>操作パネルからこのアプリケーションを起動しようとして、このメッセージが表示されます。</p> <p>ユーザに権限がなく保存先指定機能が無効の場合は、このアプリケーションは起動しません。TopAccessから以下の設定をするよう管理者に依頼してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文書をスキャンして保存したいユーザには、[スキャン機能] - [リモート保存] 権限のあるロールを割り当ててください。 • [管理者] - [セットアップ] - [一般] - [機能設定] にアクセスし、[SMB保存] を有効にしてください。 • [管理者] - [セットアップ] - [共有フォルダに保管] - [宛先] にアクセスし、[ネットワークフォルダを使用する] を有効にしてください。
タイムアウトによりジョブを中止しました。 (スキャン開始時刻 hh:mm:ss)	<p>ジョブの実行が遅延されて操作パネル画面を閉じてから1時間30分を超えると、ジョブを中止してこのメッセージが表示されます。</p> <p>もう一度ジョブを選択して操作をやり直してください。</p>
<p>ファイルの送信に失敗しました。 (スキャン開始時刻 hh:mm:ss)</p> <p>※このメッセージは、操作パネルに表示されます。</p>	<p>このアプリケーションのパネル操作中に、外部共有フォルダへのファイル送信に失敗すると、パネルにこのメッセージが表示されます。</p> <p>SMBプロトコルによるファイル送信にエラーが発生すると、ファイルを保存できません。以下を確認するよう、管理者に依頼してください。</p> <p>SMBプロトコルで正しくファイル送信できるように設定してください。ネットワークパス、ログインユーザ名、パスワードを確認してください。また、指定したユーザにアクセス権があるか、共有フォルダの容量に空があるか確認してください。</p>
<p>ファイルの送信に失敗しました。 (スキャン開始時刻 hh:mm:ss)</p> <p>※このメッセージは、アプリケーションログに保存されます。</p>	<p>スキャンを実行しても、文書の保存ができません（共有フォルダに、保存したはずのファイルがありません）。</p> <p>SMBプロトコルによるファイル送信にエラーが発生すると、ファイルを保存できません。TopAccessのアプリケーションログを確認するよう、管理者（またはログを確認する権限のあるユーザ）に依頼してください。アプリケーションログでこのエラーの発生を確認したら、SMBプロトコルで正しくファイル送信できるように設定してください。ネットワークパス、ログインユーザ名、パスワードを確認してください。また、指定したユーザにアクセス権があるか、共有フォルダの容量に空があるか確認してください。</p>
もう一度やり直してください。	<p>自動原稿送り装置が原稿の最初のページで詰まった場合、詰まった原稿を取り除くとパネルにこのメッセージが表示されます。</p> <p>[スタート]（または操作パネルの [スタート] ボタン）を押して、文書のスキャンを再開してください。</p>
スキャンの上限枚数に達しました。	<p>ユーザがスキャンできる割当がなくなりましたので、スキャンできません。</p> <p>割当を初期化するか、割当設定を変更するよう、管理者に依頼してください。</p>
HDD/SSDの空き容量がありません。	<p>ファイルを保存するHDD/SSDに空き容量がありません。</p> <p>管理者にご相談ください。</p>
現在、実行できません。(スキャン開始時刻 hh:mm:ss)	<p>本機が内部処理処理中です。</p> <p>しばらく時間を空けてからやり直してください。</p>

メッセージ	トラブルの状況と対処方法
-	<p>保存したファイル名やフォルダ名に、付けた覚えのないアンダースコア (_) があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スキャンしたバーコードにファイル名やフォルダ名として使用できない文字があると、アンダースコアに置き換えられます。ファイル名やフォルダ名を確認して、禁止文字を含まないようにバーコードを作成してください。 • 認識したフォルダパスやファイル名 (末尾) にスペースがあると、アンダースコアに置き換えられます。アンダースコアを付けたくない場合は、スペースが入らないようにバーコードを作り変えてください。
-	<p>保存したファイル名やフォルダ名の後半が切れてなくなります。</p> <p>認識したバーコードから、ファイルやフォルダが最大128文字を超える名前が付けられる場合、超えた部分は切り取られます。切れてなくなっている部分を確認して、ファイル名やフォルダ名が長すぎないようにバーコードを作成してください。</p>
-	<p>保存したファイル名や保存先のフォルダ名が「NotRecognized」で始まります。</p> <p>スキャンしたバーコードが認識できません。バーコードの内容に問題がないか、バーコードの印刷部分が汚れていないか確認してください。[原稿モード] は、「テキスト」を推奨します。</p>
-	<p>複数文書をスキャンすると、意図したとおりファイルが保存されない場合があります (共有フォルダに、保存したはずのファイルがありません)。</p> <p>以下の状況を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 複数文書が意図せず単一ファイルにまとめられて、共有フォルダに保存されていませんか。バーコードが抜けていると認識できず、文書を正しく個別のファイルに分割できません。 • ファイルやフォルダが、意図せず「NotRecognized」で始まる名前で共有フォルダに保存されていませんか。複数文書全体の最初のページまたは最後のページにバーコードがないと、ファイルやフォルダにバーコードの内容と同じ名前を付けることができません。 <p>バーコードを配置したページと選択したジョブの設定は、以下の通り合わせる必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 選択したジョブの [バーコードのあるページの手前でファイルを分割する。]、[先頭ページのバーコードをファイル名に利用する。] または [先頭ページのバーコードで、ファイルをフォルダに分類する。] がオンのときは、必ず各文書の先頭ページにバーコードを配置します。 • 選択したジョブの [バーコードのあるページの後でファイルを分割する。]、[最終ページのバーコードをファイル名に利用する。] または [最終ページのバーコードで、ファイルをフォルダに分類する。] がオンのときは、必ず各文書の最終ページにバーコードを配置します。
-	<p>バーコードの認識に時間がかかります。</p> <p>バーコードの背景に色がある場合、バーコードの認識処理に時間がかかります。ジョブの [スキャン設定] - [カラーモード] を [フルカラー] または [グレースケール] に設定してください。[カラーモード] を [白黒] に設定してスキャンする場合は、ジョブの [詳細] 設定を調整して、背景色ができるだけ薄くなるようにしてください。</p>

メッセージ	トラブルの状況と対処方法
アプリケーションエラーが発生しました。	何らかのアプリケーションエラーが原因で、このメッセージが表示されます。 システムエラーが発生しました。本機を再起動してください。 再起動しても解決しない場合は、管理者にご相談いただくか、サービスエンジニアまたは弊社販売店にお問い合わせください。

東芝デジタル複合機
e-BRIDGE Plus for Barcode Scan 取扱説明書

東芝テック株式会社

